

どがなかも 木田市です!!

大田市ふるさと情報誌

VOL.44

2020.2

見て満足!
食べて納得!

鮮度抜群の大田の魚が
食卓を彩ります



写真：漁師料理 活海

【関連記事P3】



「ディスカバー農山漁村の宝」 グランプリ受賞

株式会社
魚の屋



農山漁村の有する資源活用により、地域の活性化、所得向上に取り組む優良事例を選定する「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（内閣府・農林水産省主催）の選定授与式が12月3日、総理官邸で開催されました。全国から931件の応募がある中、31地区の優良事例の一つに選定されていた（株）魚の屋（大田市静間町）は、さらに最優秀にあたるグランプリに選定されました。



魚の屋の中島勝徳社長に

お話を伺いました。

—日本一、おめでとうございます！

総理官邸での授与式はいかがでしたか？

総理から直接授与される際には、たくさんのフラッシュがたかれ、とても緊張しました。官房長官や農林水産大臣にもおめでとう。これから頑張つて」と声をかけていただき、グランプリを受賞したんだという実感がわきました。

—どういった点が、
評価されたのでしょうか？

「天然ワカメの希少性をビジネス化した行動力」「地域資産をブランド化し、障がい者、高齢者の雇用につなげた」といった点が評価されたと思っています。

漁師の所得増にもつながり、当社の売り上げも伸びています。

—ここに至るまでには

苦労もあったのでは？—

沢山ありますよ！（笑）

小さな頃は、「魚の屋の息子」と、からかわれたものです。一方で父親の背中を見ながら、経営や人づきあいを学んだように思います。

社長就任時には、中国に工場がありました。間もなく撤退しました。大きな損失もあり、経営はとても厳しい

時期でした。

天然ワカメの調達も、初めは、漁師さんも半信半疑。少人数でのスタートでした。

テレビ番組で、当社のわかめふりかけが、「ふりかけNo.1」に選ばれたところまでは良かったのですが、原料が値上がりして、大赤字でした。高い宣伝費になりました。

—それでも頑張つて

こられた思いとは？—

この地域で商売し生きていくというところに、誇りがありましたし、天然ワカメには可能性がある走り続けてきました。

今回の受賞も、当社が評価を受けたことよりも、「おおだでも、頑張れば日本一になれる」ということが証明できたことが、何よりうれしかったです。この地にはまだまだ宝が眠っています。その宝を探し、磨きつけていきます。



今の時期おいしい 大田のグルメ

前号に続き、今食べて欲しい大田のグルメをピックアップ。
今回は「魚」です。一日漁で獲れる新鮮な魚が
食べられるお店をご紹介します。

漁師料理 活海 かつみ

インスタグラムでも話題を呼んでいる注目のお店です。
一見、住宅街にある普通の民家。その見た目からは想像できないほどの、新鮮で大量の海の幸に驚かされます。

取材に訪れた日は、ノドグロ、クエ、サザエの刺身がこれでもかと盛られたお造りが登場。ご主人いわく、独自の仕入れ先があるので、いつでも新鮮な地物の魚介類を提供できるとのこと。

他にも焼き魚や煮魚といった料理が出てきます。これだけでも十分満足なのですが、なんとシメにアンコウ鍋まで。



旬のお魚を美味しく食べてもらうことがコンセプト。ご主人のおもてなし精神には頭が下がります。旬のアンコウは、身がプリプリでコラーゲンもたっぷり。翌日はお肌がツヤツヤになり、二日間アンコウを楽しめました。

また、ご主人が独自に仕入れた数々のお酒もおすすです。様々な種類を揃えているので、ぜひたくさん飲んでほしいとのこと。

こんなにも食べきれない程の新鮮な海の幸を食べることができるのは「活海」ならでは。ぜひ一度、ご家族、友人と一緒に大勢で訪れてみてください。

※料理の内容はご相談ください。



住所: 鳥井町鳥井135
TEL: 090-5694-1798

海鮮割烹 朝日 あさひ

続いて紹介するのは海鮮割烹 朝日です。朝日旅館というところから人も多いのではないのでしょうか？

まだ記憶に新しい鳥根県西部地震の被害を受け、朝日旅館は解体を余儀なくされました。旅館としての再開を考えていましたが、資金の工面が難しく悩む毎日。地域の方から「旅館は難しくても、料理を出す店として残って欲しい」と応援してもらい、「海鮮割烹 朝日」として再出発しました。

取材に訪れた日には、たっぷりの魚が入ったへか焼き(へか鍋)を頂きました。へか焼きは大田市の郷土料理として有名です。

すよね。海岸部の地域に住んでいる方なら一度は召し上がったことがあるのではないのでしょうか。いわゆる魚のすき焼きです。魚介の旨み



がたっぷり出てとても美味しいです。

次に登場したのが、

と盛り上がりを見せる大田産のアナゴを使ったアナゴ寿司です。大田のアナゴはとにかく肉厚で食べ応え十分。アナゴに含まれるビタミン成分は美肌効果もバッチリです。美肌のルーツは美味しい海産物にあるのかもしれませんね。ぜひ大田の海鮮を召し上がってみてください。

※料理の内容は仕入れ状況により変わります。



住所: 久手町波根西396-4
TEL: 0854-85-8431



大田市は芸術文化の町

市内を中心に芸術分野で活躍する方々を紹介します

東京上野で夢の舞台

『オペラ石見銀山』

昨年10月31日、東京都上野にある東京文化会館において、「オペラ石見銀山」が上演されました。大田市からも大屋神楽社中や合唱団が舞台に立ち、約2千人の観客を魅了しました。

「オペラ石見銀山」とは

平成29年、石見銀山遺跡の世界遺産登録10周年を記念し、地元有志による実行委員会に、観光大使である「オペラユニットザ・レジェンド」らが協力し、制作・上演された創作オペラです。

石見銀山の歴史を題材にしたストーリーに、石見神楽が融合されたオペラは話題となり、大田市民会館、その後の東京新国立劇場での公演は、いずれも満席。大喝采と感動のうちに、初演の幕を閉じました。

再スタート

一度は眠りについたオペラでしたが、昨年5月「石見神楽」が日本遺産に認定されたことを機に、急遽再演が決定。合唱団では、前回出演した子どもは成長しており、新メンバーを入れたがらの再スタートでした。

そして、「初演を超える舞台に！」を合言葉に、猛練習を重ね、東京へ向かったのです。

夢の舞台で

地元メンバーは、はるか5階まで客席のつづく大ホールに気後れしうになりながらも、夢の舞台へ。ソリスト、オーケストラ、神楽の囃子、溢れかえる音楽の渦に包まれ、最後は客席からの大拍手。最高のステージを作り上げた達成感と安堵感とともに、笑顔と涙で、本番を終えました。

夢の先の夢に向かって

地方発のオペラが東京の舞台上で演じられるのは、極めてまれなこと。これを可能にしたのは、大田市に「石見銀山」と「石見神楽」という誇れる宝があり、そして、夢を形にしようと懸命に支えた人たちがいたから。

今回の舞台は幕を閉じましたが、15周年には再々演し、やがては海外でも、と、夢は膨らむばかりです。みなさん、大田市民になって、夢の舞台に立ちませんか!?

※本年6月7日(日)、大田市民会館にて、全国植樹祭を記念し、ソリスト・ピアニストによるコンサートが開催されます。

大森町在住 世界的音楽家

破魔澄子さん

トーマ・プレヴオさんご夫妻

破魔(はま)澄子(すみこ)さんとトーマ・プレヴオさんご夫妻は、2008年から大田市民大森町に住居を構えておられます。破魔さんは、元フランス国立管弦楽団の第1ヴァイオリン奏者、ヨーロッパのメジャーオーケストラ初の外国人奏者であり、アジア人女性音楽家として、欧米楽団のパイオニア的存在です。トーマさんは、元フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団首席フルート奏者であり、世界トップクラスのフルート奏者の一人です。

ご夫妻が、大森町に住居を構える



世界トップクラスのフルート奏者
トーマ・プレヴオさん



世界的ヴァイオリニスト 破魔澄子さん

ことになったきっかけは、トーマさんが日本の古民家や古い町並みに興味があり、友人の紹介で大森町を訪れたこと。街並みを気に入り、すぐにここに住みたいと決意。石見銀山生活文化研究所の松場会長とご縁があり現在の住まいを紹介されました。昨年までは、トーマさんがオーケストラに所属されていたため休暇の際に大森町に滞在するだけでしたが、オーケストラを退団されたことにより2019年4月より一年の半分程度を大森町で過ごされています。

ご夫妻は、音楽で地域に貢献したいという熱い思いをもっており、石見銀山国際音楽アカデミーという取り組みを行っています。これは、破魔さん、トーマさんをはじめ、世界の一流音楽家たちが大森町に集まり日本各地の音楽を志す大学生や若手音楽家、音楽教室の先生などを指導するもので、2015年夏に誕生。全国から約20名の生徒が集まり1週間泊り込みでレッスンを受けることが出来ます。ヨーロッパに渡航せずに一流音楽家の指導が受けられると受講生からは大変好評で、年々、受講生も増えてきています。

また、地域の子どもたちにも一流の音楽に触れて欲しいとも考えておられ、レッスンや練習の際には、気兼ねなく訪れて欲しいと語っています。



ロビーで披露した子ども神楽も大好評



舞台袖にはオペラやバレエの公演ポスターや出演者のサインの数々



子どもたちが出演記念にサイン



村人が神楽を楽しむ象徴的な「第三幕MATSURI」の場面



5階席から見下ろすステージ



本番直後の集合写真
苦楽も旅も共にしてみんな仲間

おだにきて

泊まつて

食って



大田市肉「ゲストハウス」特集

新たな交流が誕生する地域の中心拠点に。

大田市ゲストハウス雪見院 大田町



大田町に市内初のカプセルホテルが1月15日オープンしました。安価に泊まれることが特徴です。32床のドミトリ（カプセルベッド）があり、男女混合フロアと女性専用フロアに分かれています。

昨年、12月28日には内覧会があり、多くの関係者や地域住民が訪れました。地域の期待も高まっていることが伺えます。建物に入ってすぐのところには交流スペースを設けており、宿泊者同士でコミュニケーションをとることが可能です。また、無料Wi-Fiも利用できるで、出張やビジネスシーンでも利用できます。



雪見院を運営するのは株式会社シグマの高橋泰子さんです。雪見院だけではなく、親子でグループホーム七色館と、NPO法人緑と水の連絡会議の運営も手掛ける女性実業家です。この雪見院をオープンしたのは様々な方の活動拠点となるため。NPOでの国際交流から生まれた繋がりを、更に育んで生きたいという強い思いを持っています。最終的には、大田のファンになったり、再び大田に来てくれるリピーターになってもらうことを理想としています。

大田市にお住まいの方も、飲み会の折などに安く泊まれる宿として利用してもらいたいと考えています。

大田高校生とのコラボも実現しました。地域探究学習「地域の困った」を解決するプロジェクト」内



【予約・お問合せ先】インターネットから予約可
大田市大田町大田イ378-14 TEL:0854-86-7100

で、高校生が市内飲食店6店舗に協力を依頼し、オリジナルの英語版メニューを作成。協力をもらった飲食店に配布しました。分かりやすい英語表記とメニュー写真にお店に食べに行ってみたいと言う気持ちも高まります。メニューは多くの外国人にも見ってもらえるよう、雪見院にも設置されました。

学生から大人といった幅広い層や、外国人も巻き込んだ新しい人の流れが出来そうです。今度も雪見院から目が離れません！

ゆっくり、ひっそり。大人の楽園。

HISOM 温泉津町

小さな湾に面した、温泉津町日祖地区にある民泊施設「HISOM(ヒソム)」を存知でしょうか。築100年近い古民家をリノベーションし、北欧のライフスタイルをイメージした雰囲気を作り出しています。HISOMという名称は「日祖地区」と、「都会の忙しさを忘れて、ゆっくり、ひっそり過す」をかけたもので、まさに潜(ひそ)むという思いが込められています。

代表を務めるのは「ゆのつ民泊・体験事業協議会」の近江雅子さんです。江津市の出身の近江さんは、県外へ進学をされ、東京で就職・結婚をされました。島根にUターンする決心をして、大田市温泉津町に移住。何気なく町を散策している時に日祖の湾にひとめぼれ。その素晴らしいさに大きな

感謝を受け、

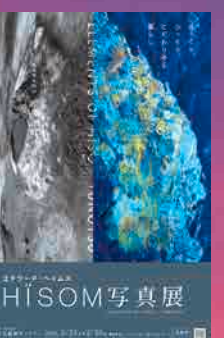
「ここから何か出来るはず！ここはきっと大人の楽園になる！」と思いを募らせました。



たどり着いた答えは、「ゆっくり、ひっそりと暮らす」と言うライフスタイルに価値を見出し、宿の名前にもなっているHISOMのブランド化でした。多くの方の協力を得て、日祖発の新たなスローライフを世界に発信しています。手始めに英語版写真集を作成し、訪日客や観光業者に向けてPRを行いました。

昨年の12月にフィンランドから陶芸家アンナカイサ・ハアンアホさん、料理人マルクス・アレモさんの2名を招き、HISOMを拠点にして、創作活動を通じた異文化交流を行いました。お二人とも日本文化に触れ多くの刺激を受けました。

近江さんは芸術家の創作活動の場にもなると考えています。何もないからこそ、新たな発見がある。ありのままの自然環境に囲まれてインスピレーションが湧いてくる。訪れた者は何かを得られる場所になると予見しています。



2020年3月25日(3月30日)に島根県立美術館で写真家エドワード・ヘイムス氏によるHISOM写真展が開催されます。日本の昔ながらの暮らし方に「北欧の世界観」が合わさり、新たな文化が誕生しました。日祖のエレメントを感じられる写真展となっています。ぜひ会場へお越しください。

【予約・お問合せ先】インターネット(Airbnb)から予約可
大田市温泉津町温泉津イ588-1 TEL:090-7507-6558(近江)

市民の生活の移動手段となる 地域公共交通

地域の課題解決の「手」となるか。
大田市内での新たな実証実験について
をご紹介します



公共交通のピンチ!?

バス運転手
担い手不足が深刻です

Green Slow Mobility
グリーン・スロー・モビリティ

グリーン・スロー・モビリティ（以下グリーン・スロー）は二酸化炭素を排出しない電動車両を利用して、地域が抱える交通課題の解決を目指す取り組みです。

大田市大森町の世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」内では、石見銀山公園から龍源寺間歩までの車両進入規制区間（約2.3km）の利便性向上や大森の町並みの公共交通空白地解消を目指し、昨年、環境省事業に申請し、環境に配慮した持続可能な公共交通を目指すグリーン・スローモデル事業の実証地域として、全国7地域の1つに選定されました。

昨年12月から大森町内でグリーン・スロー実証実験が行われており、地元住民や事業者と協議を重ねながら、今後の運行方法について検討を行っています。



大森の町並みを走るカート

今後はインターネットを活用した（ICT）技術を用いたバスロケーションの導入などを計画しています。

【お問合せ先】
大田市観光振興課
☎0854-88-6267

Mobility as a Service
モビリティ・アズ・ア・サービス
「井田いきいきタクシー」

モビリティ・アズ・ア・サービス（以下MaaS）はスマートフォンアプリ等のICT技術を用いて予約や決済が行える新たなサービスです。

温泉津町の井田地区は少子高齢化が著しく、地域の住民は温泉津町中心部へのアクセスに不便を抱えています。昨年、国土交通省のモデル事業に採択され、11月から運行の実証実験が行われています。

注目すべきは、スマートフォンで予約・決済が出来るMaaSを取り入れているのももちろんのこと、月額3300円の定額制であるという点です。利用者の負担が少ない定額制で、安心して利用できます。この方法が中山間地域の抱える課題解決策のひとつ



出発を見送られる井田いきいきタクシー

【お問合せ先】
大田市まちづくり定住課
☎0854-83-8029

になることを期しています。昨年11月に行われた出発式では、地域住民が実際に乗ってみて、利用方法を確かめました。井田地域自治会の鳶川会長は「高齢になり車の運転をやめると閉じこもりがちになる心配があるが、定額タクシーがあれば住民の生活範囲が広がる」と期待を寄せました。



石見交通バス

免許を取得している方は、ぜひ大田市へUターン、Iターンして力を貸してください。みんなで更に住みよいまちづくりを目指しましょう。

今、公共交通の根幹を支える路線バスの担い手不足が深刻化しています。運転手の高齢化や、若い運転手が不足しており、大田市に限らず全国的な問題となっています。原因のひとつは大型二種免許の取得が低下していることがあげられます。若い世代が気軽に取得できるようにすれば課題解決の可能性が生まれそうです。

地元就職につながるよう 新たな取り組みを行っています！



「ジョブシャドウイング」
地元高校生の職業観の養成を目指し、市内高校生を
対象にキャリア教育の新たな取り組みとして、ジョブ
シャドウイングを行いました。

『大学生と企業の交流会＆ 企業見学バスツアー』

島根県内に次ぐ進学先である広島の学生を対象に、
大田市内の企業との交流会、企業を巡るバスツアー
を行いました。〔主催：大田地域人材確保促進協議会〕

広島で大学生と 企業の交流会

10月14日、広島に進学した
大田市出身の学生たちと大田
市内の企業との交流会を、広
島市内で開催しました。

就職相談会などとは違った
和やかな雰囲気の中、理系の
学生と製造業の研究開発系の
社員の方々の間では、化学の
マニアックな談義が展開され
るなど、ざつくばらんに深い
話ができたとようです。

参加した学生たちからは、
「一度大田を離れてしまうと、
情報がないので、このような
機会があればいい」「企業の
方と直接話ができて、就職を
考える上でとても参考になっ
た」といった感想が寄せられ
ました。



企業見学バスツアー

11月16日、大田市出身で広
島県内に進学した大学生、市
内の高校生が参加し、企業見
学バスツアーを開催しました。

市内の製造業、IT系企業5
社を見学した後、楯野市長と
も意見交換しました。

「市内にこんなおしゃれな
オフィスがありびっくり」「世
界中で使われる製品が作られ
ているとは知らなかった」と、
実際に現場を見て、多くの発
見があったようです。



ジョブシャドウイングとは？

高校生等が半日程、働く人
に密着し、影のように張り付
いて仕事ぶりを観察する、と
いうもの。職場での実務体験
を積む「インターンシップ」
とは目的が異なり、さまざま
なキャリア選択が存在するこ
とに気づくためのキャリア探
索活動です。

ジョブシャドウイングの実施

令和元年10月15日、瀬摩高
生16名が参加し、大田市役所
を含む市内17の事業所で実施
しました。

参加した生徒からは「進路
についての話もたくさんで
き、不安が和らいだ」といっ
た、将来に対して前向きにな
れたとの意見がありました。
また、企業からは「次世代を
担う若者に仕事の内容を知っ
てもらえる」とメリットを感
じていただけたようです。

この取り組みを通じて、多くの
学生が、地元で働くことの魅力
を感じ、将来市内で活躍してく
れることを願っています。



【お問合せ先】
大田市産業企画課
☎0854-83-8077

松風会

「松風会」は邇摩高校の卒業生会です。会員数が1万7千人を超え、熱心に活動しています。

松風会は邇摩郡立石東農学校を前身とし、現在の邇摩高校に至るまでの卒業生が組織する卒業生会です。邇摩高校の校長を務めた大島淳さんが現在の会長です。

毎年2月には大田市内で総会・懇親会が盛大に行われます。県外の関東・関西支部では6月に総会・懇親会を行っています。また、会員向けに会報「松風」を毎年発行しています。邇摩高校ホームページにてご覧ください。



【お問い合わせ】

松風会事務局 島根県立邇摩高等学校
島根県大田市仁摩町仁万 907
TEL : 0854-88-2220
ホームページ <https://www.nima.ed.jp>

目指せ地域の拠点

小さな拠点づくりについて大田市の取り組みをご紹介します。

小さな拠点づくりとは、人口減少や高齢化が著しい中山間地域等において、将来にわたって地域住民が暮らし続けていけるように、生活を支える地域運営の仕組みをつくる取り組みです。

大田市においても、富山町で新たな拠点となる富山まちづくりセンターが誕生しました。

富山地区は平成25年3月に富山小学校が閉校し、地元では「旧富山小学校施設活用対策委員会」を発足し、空き校舎となった旧富山小学校の活用について、市と地元で協議を重ねてきました。

その結果、老朽化していたまちづくりセンターの移転改修を行い、地域の念願であった新しいまちづくりセンターとして生まれ変わりました。昨年11月に行われた開所式では、楢野市長

から、「耐久性に優れ、安心安全に利用できるコミュニティ拠点として、地域住民が互いに協力し、持続可能なまちづくり活動がますます進められることを期待する」と挨拶がありました。

地元を代表して富山自治会連合会 岩崎会長からは、同委員会発足後、市と鋭意協議を重ね、今日を迎えられることが出来た喜びが伝えられ、町民が健康で安心して富山町に住み続けたいと思えるような「小さな拠点づくり」の拠点として活用していきたいと思いが述べられました。

【お問い合わせ】

大田市役所政策企画部
まちづくり定住課
TEL 0854-83-8161

祝 富山まちづくりセンター開所式



挨拶をする楢野市長



除幕式の様子

シリーズ 石見銀山^{④④} 銀山の酒事情—金森家の調査等から明らかとなったこと—

島根県指定史跡「石見銀山御料郷宿泉屋遺宅金森家」では建物の修理工事と並行し、発掘調査や古文書の整理作業などが行われました。平成30年度に実施された発掘調査では土間の西側から酒造に関連する遺構（写真①）が複数見つかりました。これらの遺構は出土遺物や構造、文献の調査成果などから、明治・大正時代にかけて使用されたものであることが明らかとなりました。また、建具の修理に際し、江戸時代の酒造業者の帳簿類が襖の裏貼に使用されていることが明らかとなりました。

この帳簿を一枚ずつ剥がし、整理すると「どこ」の「誰」に「何」を販売していたのかが見えてきました。写真②は、帳簿の一部ですが、顧客の多くは大森町の住民であり、身分を問わず様々な人々がこの店を利用していたようです。帳簿には町人以外にも役人や僧侶などの役職が記載されています。販売された商品は上酒や並酒、名酒、焼酎など酒類だけでも複数の銘柄があったようです。また味噌や酒粕などの酒造副産物も販売されていました。このほか「山とふろ」という記述もあり、これが何を表しているのかは不明ですが、多くの商品を取り扱い、活況を呈していた江戸時代の造り酒屋の様子が想い起こされます。

大森町以外に、水上町や仁摩町大森町周辺でも、造り酒屋が営まれていた様子が今も見られます。多くは明治時代以降の建物ですが、江戸時代以前にもこの地域では酒造業が盛んだったようです。1600年に毛利氏に納められた納税の記録を見ると、銀



①釜場
（米を蒸すための釜）遺構



③銀山周辺に残る
酒造施設



②金森家の調査で見つかった帳簿類

【お問い合わせ先】大田市役所石見銀山課
☎0854-83-8133

大田市は、ユネスコの「平和と人権尊重」の精神に基づき、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の保全と活用をすすめています。

山周辺の酒造業者からは一年間に銀350枚が徴収されています。温泉津周辺の酒造業者からは銀21枚が徴収されていますので、銀山周辺の酒造業がいかに活発であったかが資料からうかがえます。

酒造には米のほかに上質の水が必要となります。鉱山開発が盛んなこの地域でこれだけ酒造業が営まれた背景には、地理的な要因に恵まれているだけでなく、環境に配慮した開発があったのではないのでしょうか。今回は金森家の調査事例から「酒」をテーマに銀山周辺の歴史の一端に迫ってみましたが、調査が進むにつれ、繁栄時の銀山の様子がより明らかになると期待されます。今後の成果にご期待ください。

第71回全国植樹祭しまね2020トピック

三瓶のアカマツを使用した 学習机の天板を地元小学校に寄贈

大田市林友会が、三瓶山で伐採されたアカマツを大市内の業者で加工、製作した天板を池田小学校、北三瓶小中学校、志学小中学校に合計42枚を寄贈されました。



贈られた天板

児童・生徒たちは市内の林業や製材業について学習した後、天板を取り付ける作業を行い、綺麗な机でうれしい、大切にしたい。と喜んでいました。

全国植樹祭 大田市記念品が決定

全国植樹祭の招待者へ贈る大田市の記念品が決定しました。

「全国植樹祭大田市記念品選定委員会」により、提案のあった47商品の中から、11商品が選ばれ、全国植樹祭の招待者や出演者（県内外から約5,000人）へ贈られます。



記念品11品

【お問い合わせ】大田市役所産業振興部森づくり推進室 ☎0854-83-8170

大田に集まれ
若い力!



大田市25歳同窓会



ビッグイベント「大田市25歳同窓会」開催

昨年末に「大田市25歳同窓会」が大田商工会議所で行われ、今年度25歳を迎える大田市出身者約100名が参加しました。この催しは昨年度から大田市が主催しており、社会に出て転職を考えたり、ライフスタイルが変わりやすいタイミングと言われる「25歳」をターゲットに、ふるさととの関わりを持つてもらおうと企画したものです。

実行委員長を務めたのは伊藤広喬さん。「この機会を通じて、みんなの縁が少しでも大きくなる」と思い大役に志願しました。

伊藤実行委員長と楢野市長の乾杯の後は、会場のあちこちで懐かしいトークで盛り上がりを見せました。イベントの途中では、実行委員会考えた「ふるさとクイズ」や、大田市の景勝地がたつぷりと写ったスライドショーが上映されました。

この会を通じてふるさとの関心が高まったことは間違いありません。若い力が再び大田に戻り、元気な大田市となることを目指します。



おおだ空き家情報

令和2年2月1日現在

貸したい!
売りたい!
空き家随時募集中!

空き家情報はおおだの定住PRサイト『どがどが』でご覧いただくことができます。
大田市役所まちづくり定住課 ☎0854-83-8029 にご相談ください。



久利町 売買:250万円

日当たり良好な市立病院にほど近い立地です。農地耕作を行うことが購入条件になっています。

【物件番号: 110055】



久手町 売買:100万円

海に近い立地です。きれいな住居で即入居可能ですが、駐車場がなく、付近で借る必要があるため安価な価格設定になっています。

【物件番号: 120047】

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行/大田市役所政策企画部まちづくり定住課 ☎:0854-83-8029 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口 1111 番地 E-mail: o-tiiki@city.ohda.lg.jp https://www.city.ohda.lg.jp
おおだの定住PRサイト「どがどが」 https://www.teiju-ohda.jp/ どがどが 検索

